平成23年度　校内研究概要

研究主題：
楽しい学びの中で、確かな学力を育てる算数科学習

～学習支援ボランティアと連携した
基礎学力向上システムの構築を通して～

宇土市立宇土東小学校

1　研究主題について

楽しい学びの中で、確かな学力を育てる算数科学習
～学習支援ボランティアと連携した
基礎学力向上システムの構築を通して～

楽しい学びとは	・算数のよさに気づく。本校では、児童が学ぶ楽しさを感じたり、充実感を味わうことと捉えている。
確かな学力とは	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方を育成することと捉えている。
基礎学力とは	・確かな学力を育てる基盤であり、生涯を生き抜くための基盤となる力と捉えている。
学習支援ボランティアとは	・家庭や地域の協力を得て、低学年における基礎的基本的知識・技能の習得に向け、支援していただくボランティアである。

２　研究仮説について

（1）学習支援ボランティアの活用仮説

○学習支援ボランティアを効果的に活用し、基礎的・基本的な知識・技能の習得や学習意欲の喚起、基本的学習態度の育成のための指導を行うならば、確かな学力の基盤となる基礎学力の定着を図ることができるであろう。

（2）授業仮説

〇算数的活動の中に言語活動を位置づけるなどの授業展開の工夫や「ゆうチャレンジ」的場面設定や発問を取り入れるなどの工夫、個に応じた指導と評価の工夫を行えば、楽しい学びの中で児童の確かな学力が育つであろう。

３　取組の実際

（１）　学習支援ボランティアの活用について

①　導入のきっかけとねらい

○「家庭・地域との連携を図った基礎学力向上システムづくり」についての指定を受ける

○低学年からの基礎学力の確実な定着

② 学習支援ボランティアの募集について

○　PTA運営委員会で説明（４月）

○　PTA総会時、保護者に説明と依頼

○　保護者に、募集文書を配布し呼びかけ

○　合同協議会を開き、プライバシーの保護、手順等について説明と意見交換。（５月）

③学習支援ボランティアへの主な協力団体・　個人

〇保護者

〇宇土公民館運営委員会所属団体

（嘱託会・婦人会・老人クラブ等）

〇民生委員児童委員

〇地域の方・退職教員

〇県立宇土高校生

④具体的取組内容

○「チャレンジタイム」での学習支援ボランティアの活用について

★火曜日の5時限目に全校で実施。月2回、国語と算数で年間16回。

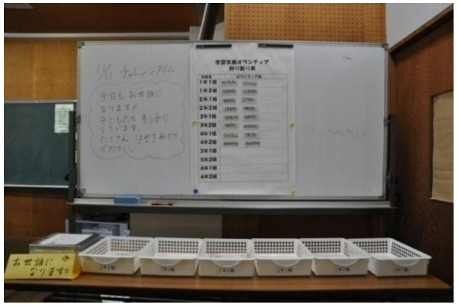
学習支援ボランティアを低学年に取り入れ、主に、基礎的・基本的事項の習得を図る時間として位置づけている。

【学習支援ボランティアの導入の流れ】

○学習支援ボランティア担当が、毎月の出欠確認を行い、担当が割り振りをしておく。

○学習支援ボランティアは、当日、職員玄関の受付名簿にチェックし、ネームプレートをつけ、分担表で担当する学級を確認する。

○チャレンジ先生（○つけ先生）として、チャレンジタイムに参加する。



1時間の流れ

チャレンジ1　　百マス計算

↓

チャレンジ2　　チャレンジ先生と一対一学習

チャレンジ3　　一人学習（プリント）

（基本的な計算問題から発展的な問題へと個に応じてプリント学習を進める。）

↓

今日のまとめ

（一人一人に声をかけて、ご褒美シール）

〇「算数科の授業」での学習支援ボランティアの活用

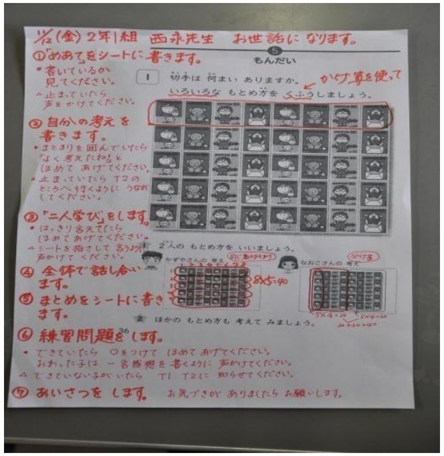
★　必要に応じて、算数科の授業に入る

〇担当する学級は、当初の説明会（５月）に決定。

〇担任が、年間指導計画を基に、学習ボランティアに入ってもらう単元、時間を検討する。学習ボランティアと連絡をとり学習支援ボランティアを迎えるための準備を行う。

〇当日、担任は、休み時間に、学習支援ボランティアと連絡シートで授業内容の確認を行う。

〇担任、TT、学習支援ボランティアで授業を行う。



学習支援ボランティアが担当する主な内容

【チャレンジタイム】

〇　児童と一対一学習を行う。

〇　国語、算数のプリントの
　丸つけを行う。

〇　丸付けを通して意欲付けを行う。

【算数科の授業】

〇　操作活動の補助を行う。

〇　自力解決でできた児童を認め、
　褒め、励ます。

〇　学び合いを聞き、よさを褒める。

〇　評価シートの丸付けを行う。

「すごい、早いねえ。」
「字が丁寧で、上手だね。」
「全問正解だね！」
「先生、花マル100点してもらったよ！」

（2）授業について

学年部取組テーマ

高学年

学び合い、深め合う児童の育成

算数的活動・発問の工夫など

↑

中学年

伝え合い、学び合う児童の育成

算数的活動・発問の工夫など
・学習支援ボランティア
（3年のみ）

↑

低学年

自分の考えを持ち、伝え合う児童の育成

学習支援ボランティアの活用・操作活動など

個に応じた指導・評価の工夫

問題解決的な学習の過程

過　程

つかむ

- 問題を知る→課題をつかむ→解決の見通しを持つ

やってみる

- 自力解決・・・自分なりに解いてみる算数的活動

深める

- 共同解決・・・言語活動を取り入れた算数的活動

まとめる　つなげる

- 本時を振り返り、次時につなげていく

問題提示の工夫

評価①指導

助言

評価②

助言

- やってみたい
- これを使ってみよう
前やったことがあるよ
- わかりやすいな
はやくできるぞ
- 今日の勉強で分かったことは〇〇だ
使ってやってみよう
- 身のまわりにもあるかな
他にも使えないかな

学年に応じた算数的活動

やってみる（自力解決）

操作活動

【数カードを使った活動】

【分度器を使った活動】

念頭思考

【図など書いて考える活動】

ここに線を入れて考えたら、解けそうだな。

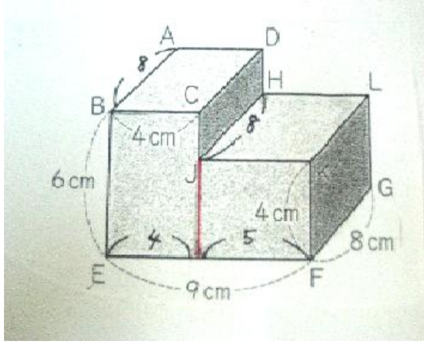
深める（練り上げ）①

	ペアや小集団で		学級全体で
低学年		自分の考えを しっかり伝える	
中学年		友だち同士で 伝え合う	
高学年		友だちの考えを 聞いて 深め合う	

学級全体での発表のさせ方の工夫（６年の例）

問題　体積の求め方を考えよう。

①【図と式で発表】



８×４×６＋８×５×４

＝192＋160

＝352

②【式のみを発表】

８×９×６ー８×５×２

＝432ー80

＝352

③【T2が式のみを提示】８×４×11＝352

式からそれに対応する具体的な場面を言葉や図などと関連づけて説明したり、分かりやすく伝え合ったりする。

話し合いの発問のポイント

○どこがいい

○どれが一番速くて、・・・

○1つにまとまらないかな

○共通するところはないかな

個に応じた指導と評価の工夫

指導と評価の一体化

つかむ

- 問題を知る→課題をつかむ→解決の見通しを持つ

やってみる

- 自力解決・・・自分なりに解いてみる算数的活動

深める

- 共同解決・・・言語活動を取り入れた算数的活動

まとめる　つなげる

- 本時を振り返り、次時につなげていく

問題提示の工夫

↓

評価①指導 ☆

↓

助言

↓

評価② ☆

↓

助言

- やってみたい
- これを使ってみよう

前やったことがあるよ

- わかりやすいな

はやくできるぞ

- 今日の勉強で分かったことは○○だ

使ってやってみよう

- 身のまわりにもあるかな

他にも使えないかな

やってみる（評価１：形成的評価）

★あらかじめ児童の反応を予想し、それに応じた指導や助言を考え、授業に臨む

児童の反応の見取り

反応に応じた助言

やってみる

（児童の反応を予想する。）

自力解決における児童の姿（評価①）

【単元名：立体のかさの表し方（6年）】

C1：見取図に線を入れ、それに沿った計算を書いて説明している。

C2：見取図には線を入れているが、具体的な計算に結びついていない。

C3：どうしていいか分からないでいる。

（児童の反応に応じた助言）

C1：考え方をほめ、友達に分かりやすく説明できるように準備させる。また、他の形で考えさせる。

C2：考え方を認め、分かる長さを書き込ませたりして、計算へと導く。

C3：いくつかの直方体に分けられることを助言し、線を入れて考えられるようにする。

まとめる・つなげる（評価２：総括的評価）

学習過程のまとめの段階で児童の毎時間の学習内容の理解を知るための練習問題確認テストを実施している。

・宇城地区確かめテスト
・自作テスト
・教科書の練習問題

すごい！ちゃんとできているよ。

★学習支援ボランティアも
声かけをしながら確認テストの丸つけを行う
。

４　成果と課題

（１）　成果

①　学習支援ボランティアの活用について

チャレンジタイムでは、「がんばったね」「すごいね」「おしい」等の賞賛や励ましの言葉で、意欲が高まり最後まで集中して取り組むことができた。

評価問題や練習問題の丸付けでは、担任は、個別指導がじっくりできた。

② 授業について

- 導入の段階ではしっかりと見通しをもたせたことで、課題に対して、既習事項を生かしながら考え、解決しようとする姿勢がさらに見られるようになった。

- 学習支援ボランティアによる自力解決時の操作活動の手助けや二人学び時の励ましにより、児童の意欲も高まった。

- 二人学びでは、操作活動を行ったり、言葉や式だけでなく、絵や図をかいたりしながら自分の言葉で伝え合うことができるようになってきた。

全体での学び合いにおいては、発表したことについて質問を考えたり、答えの根拠を明確にしたりするとともに、ゆうチャレンジ的な発問を投げかけることによって比較・検討やめあてに迫る話し合いができるようになってきた。

授業のまとめとして、評価問題を行い、学習支援ボランティアやTTとの役割分担を明確にしたことで、次時につながる指導を個別に行うことができた。

(2)　課　題

- 教師側も学習支援ボランティア側も少しずつ慣れ始めて効果的な活用ができつつあるが、更に、共通理解を図りながら指導する必要がある。

- 低学年は 操作活動も多いので、学習支援ボランティアとともに教材作りや教材の準備に取り組むことも考えていきたい。

●言語活動には個人差があるので、今後も他教科との関連を図りながら、日々の取り組みを大切にしていく必要がある。

●二人学びにおいて、自分の考えを伝え合うことはできるようになったが、互いの考えの比較・検討に至るまではペアによって差があるので、ペアの組み方等をはじめとする学習形態の工夫改善が必要である。